


御前山ビオトープ通信

平成16年6月20日

第5号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 

メール：denen21@hb.tp1.jp

ホームページ：

(本号はホームページ掲載記事を再編集したものです)

【案内図】



目次

- 1 第一回引っ越し大作戦
初めての稀少植物移植
古代米の田植え

1 第一回引っ越し大作戦

日時：平成16年6月16日(水)

場所：御前山ビオトープ：天気快晴
伊勢畑小学校4,5,6年生 他

御前山ダムが完成すると平成20年度には新しい湖ができますが、その前に湛水予定地域に生育する希少動植物を移植するものです。

本年度から4年計画でダム上流に整備した保存区域(ビオトープ)に皆で移植します。

今回はその第一歩で、地元の伊勢畑小学校の児童が参加してくれました。



全員集合！
御前山ダム工事現場の正面に位置する地元伊勢畑小学校が総合学習の一環で参加しました。



地元区長さんの挨拶
桧山集落の国安区長さんが地元から歓迎の挨拶
皆で頑張りましょう！



Y先生(御前山中学)の説明
なぜ、「タコノアシ」なんて変な名前がついているかわかったかな？
へエ〜、あれがタコにクリにナシか？
結局、全部、食べられないな！



移植作業開始

泥沼に足をとられて大変でした。

でもなんとか、湿地性植物のタコノアシ、ナガエミクリ、アギナシを移植しました。大人も大変でした！



古代米の田植え

地元の農家の指導で、古代米の田植えをしました。

さすがお爺ちゃんはプロ、手つきが違います。

泥んこだ～ 手も足も泥んこ、でも結構おもしろかったね

茨城新聞 2004年(平成16年)6月17日 木曜日

希少動植物'お引越し、

御前山ダム水没予定地

4年かけビオトープへ

工事関係者
地元住民

二〇〇八年度に完成する御前山ダム(御前山村松山)で、水没予定地に生息している希少な動植物たちの「お引越し」が十六日から始まった。貴重な生物を守るため、同ダムの工事関係者が企画し、地元住民と一緒に手づくりのビオトープへ四年がかりで移植する。同日の移植作業には近くの小学生や関係者ら約百人が参加、三種の湿地性植物や古代米の苗を植えた。

御前山ダムは約五十畝、データブックで希少種に乗り出した。の広さで、水戸市などへ指定されているタコノアシ、シヤハツチョウトンボなどの農業用水供給施設として、関東農政局の那珂川沿岸農業水利事業所(同)が建設を進めている。市(中河内町)が建設を進めて、同事業所は今年二月に地



ビオトープへの移植作業には地元の小学生が参加、湿地性の植物を植えた＝御前山村松山

元住民と勉強会を開くなど準備を始め、共同で設置に取り組んだ。面積は約三十坪で、深さの違う池や田んぼ、湿地、水路を整備。同事業所の清野修所長は「いろいろな環境をつくることで、さまざまな生物が生活できるようにした」と説明する。ダム完成まで、段階的に動植物を移植していく予定という。十六日は最初の「お引越し」。村立伊勢畑小の児童三十五人がタコノアシ、アギナシなど約百株や古代米の苗を植えた。同小六年の滝田直人君と足田駿君は「貴重な植物とは知らなかったけど、大切にしなければなら

いと分かったと話した。ビオトープには今後、駐車場や案内板を置き、気軽に周遊できるように環境を整える。移植が進めば、維持管理を地元で任せる方針という。清野所長は「地域の子もたちへの環境教育と同時に、地域の活性化につながる」と期待を込める。

皆さん、ご苦労様でした。昼頃には作業が順調に完了

ビオトープの入り口にそびえ立つケヤキの大木の前でパチリ。横断幕も手作りです！手作りの希少動植物下敷きや地元主婦による炊き出し古代米入りオニギリ、食育教育の資料などを受け取って帰途へ。

